

伊丹福音ルーテル教会 四旬節第三主日礼拝のしおり

2023 年 3 月 12 日

前奏

招きのことば：詩編 95 編 1-7 節

主に向かって喜び歌おう。救いの岩に向かって喜びの叫びをあげよう。

御前に進み、感謝をささげ 楽の音に合わせて喜びの叫びをあげよう。

主は大いなる神 すべての神を超えて大いなる王。

深い地の底も御手の内にあり 山々の頂も主のもの。海も主のもの、それを造られたのは主。

陸もまた、御手によって形づくられた。

わたしたちを造られた方 主の御前にひざまずこう。共にひれ伏し、伏し拝もう。

主はわたしたちの神、わたしたちは主の民 主に養われる群れ、御手の内にある羊。

今日こそ、主の声に聞き従わなければならない。

罪の悔い改めと赦しのことば

会衆： 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。

私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

牧師： 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。 アーメン。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる 私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただいて 一週間を始めます。

私たちは潤いのある人生を求めています。殺伐とした、実りのない人生を送りたくありません。それで私たちは自分の夢や理想やロマンに向かって努力をします。実現を強く願います。気持ちのつよさは人によって違いはありますが、できることなら何とかして幸せになろうと願っています。それなのに自分が自分を邪魔しています。自分の能力に限りがあります。自分に魅力がありません。自分がよい話をつぶしてしまいます。一時の欲に足をとられて長い苦勞を刈り取ることになります。そのうえ、恐れや不安にさいなまれ、人や世の中の犠牲者を装い、満たされない毎を送る人もいます。イエス様は神様に背を向けて自分で自分を幸せにできなくなってしまった私たちのところに、すべての不幸を担うために来てくださいました。恥と呪いの十字架について死んでくださり、私たちの心をプライドに縛り付けている罪と、一生涯奴隷になっている死の恐れと、もう手遅れ、もうどうにもならないと諦めさせようとする悪魔の誘惑に打ち勝ってくださいました。イエス様によって私たちは心に希望の泉をいただきます。いつもと同じ毎日が、潤いとみずみずしさのあふれるところとなります。人を赦し、人を敬い、人をとうとび、人を生かす、すがすがしい毎日になります。イエス様が与えてくださる新しい命は、私たちが求める幸せをはるかに超えて、すばらしい喜びです。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐため、緊張感を保たなければなりません。その中でも全て御手にゆだね安心して、あなたの子どもとして 生き生きと生きる日々をお与えください。この祈りを、私たちの救い主であり 主である イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

使徒書朗読：ローマの信徒への手紙 5 章 1-11 節

このように、わたしたちは信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストによって神との間に平和を得ており、このキリストのお陰で、今の恵みに信仰によって導き入れられ、神の栄光にあずかる希望を誇りにしています。そればかりでなく、苦難をも誇りとします。わたしたちは知っているのです、苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということを。希望はわたしたちを欺くことはありません。わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからです。実にキリストは、わたしたちがまだ弱かったころ、定められた時に、不信心な者のために死んでくださった。正しい人のために死ぬ者はほとんどいません。善い人のために命を惜しまない者ならいるかもしれません。しかし、わたしたちがまだ罪人であったとき、キリストがわたしたちのために死んでくださったことにより、神はわたしたちに対する愛を示されました。それで今や、わたしたちはキリストの血によって義とされたのですから、キリストによって神の怒りから救われるのは、なおさらのことです。敵であったときでさえ、御子の死によって神と和解させていただいたのであれば、和解

させていただいた今は、御子の命によって救われるのはなおさらです。それだけでなく、わたしたちの主イエス・キリストによって、わたしたちは神を誇りとしています。今やこのキリストを通して和解させていただいたからです。

福音書朗読：ヨハネによる福音書 4 章 5-42 節

それで、ヤコブがその子ヨセフに与えた土地の近くにある、シカルというサマリアの町に来られた。そこにはヤコブの井戸があった。イエスは旅に疲れて、そのまま井戸のそばに座っておられた。正午ごろのことである。サマリアの女が水をくみに来た。イエスは、「水を飲ませてください」と言われた。弟子たちは食べ物を買うために町に行っていた。すると、サマリアの女は、「ユダヤ人のあなたがサマリアの女のわたしに、どうして水を飲ませてほしいと頼むのですか」と言った。ユダヤ人はサマリア人とは交際しないからである。イエスは答えて言われた。

「もしあなたが、神の賜物を知っており、また、『水を飲ませてください』と言ったのがだれであるか知っていたならば、あなたの方からその人に頼み、その人はあなたに生きた水を与えたことであろう。」女は言った。「主よ、あなたはくむ物をお持ちでないし、井戸は深いのです。どこからその生きた水を手にお入れになるのですか。あなたは、わたしたちの父ヤコブよりも偉いのですか。ヤコブがこの井戸をわたしたちに与え、彼自身も、その子供や家畜も、この井戸から水を飲んだのです。」イエスは答えて言われた。「この水を飲む者はだれでもまた渇く。しかし、わたしが与える水を飲む者は決して渇かない。わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る。」女は言った。「主よ、渇くことがないように、また、ここにくみに来なくてもいいように、その水をください。」

イエスが、「行って、あなたの夫をここに呼んで来なさい」と言われると、女は答えて、「わたしには夫はいません」と言った。イエスは言われた。『夫はいません』とは、まさにそのとおりだ。あなたには五人の夫がいたが、今連れ添っているのは夫ではない。あなたは、ありのままを言ったわけだ。」女は言った。「主よ、あなたは預言者だとお見受けします。わたしどもの先祖はこの山で礼拝しましたが、あなたがたは、礼拝すべき場所はエルサレムにあると言っています。」イエスは言われた。「婦人よ、わたしを信じなさい。あなたがたが、この山でもエルサレムでもない所で、父を礼拝する時が来る。あなたがたは知らないものを礼拝しているが、わたしたちは知っているものを礼拝している。救いはユダヤ人から来るからだ。しかし、まことの礼拝をする者たちが、霊と真理をもって父を礼拝する時が来る。今がその時である。なぜなら、父はこのように礼拝する者を求めておられるからだ。神は霊である。だから、神を礼拝する者は、霊と真理をもって礼拝しなければならない。」女が言った。「わたしは、キリストと呼ばれるメシアが来られることは知っています。その方が来られるとき、わたしたちに一切のことを知らせてくださいます。」イエスは言われた。「それは、あなたと話をしているこのわたしである。」

ちょうどそのとき、弟子たちが帰って来て、イエスが女の人と話をしておられるのに驚いた。しかし、「何か御用ですか」とか、「何をこの人と話しておられるのですか」と言う者はいなか

った。女は、水がめをそこに置いたまま町に行き、人々に言った。「さあ、見に来てください。わたしが行ったことをすべて、言い当てた人がいます。もしかしたら、この方がメシアかもしれません。」人々は町を出て、イエスのもとへやって来た。その間に、弟子たちが「ラビ、食事をどうぞ」と勧めると、イエスは、「わたしにはあなたがたの知らない食べ物がある」と言われた。弟子たちは、「だれかが食べ物を持って来たのだろうか」と互いに言った。イエスは言われた。「わたしの食べ物とは、わたしをお遣わしになった方の御心を行い、その業を成し遂げることである。あなたがたは、『刈り入れまでまだ四か月もある』と言っているではないか。わたしは言うておく。目を上げて畑を見るがよい。色づいて刈り入れを待っている。既に、刈り入れる人は報酬を受け、永遠の命に至る実を集めている。こうして、種を蒔く人も刈る人も、共に喜ぶのである。そこで、『一人が種を蒔き、別の人刈り入れる』ということわざのとおりになる。あなたがたが自分では労苦しなかったものを刈り入れるために、わたしはあなたがたを遣わした。他の人々が労苦し、あなたがたはその労苦の実りにあずかっている。」

さて、その町の多くのサマリア人は、「この方が、わたしの行ったことをすべて言い当てました」と証言した女の言葉によって、イエスを信じた。そこで、このサマリア人たちはイエスのもとにやって来て、自分たちのところにとどまるようにと頼んだ。イエスは、二日間そこに滞在された。そして、更に多くの人々が、イエスの言葉を聞いて信じた。彼らは女に言った。「わたしたちが信じるのは、もうあなたが話してくれたからではない。わたしたちは自分で聞いて、この方が本当に世の救い主であると分かったからです。」

讃美歌 524 番

- 1 イエス君(きみ)、イエス君、み救いに 我をも もらさで 入れたまえ
※ 主よ、主よ、聞きたまえ、碎けし心の 叫びをば
- 2 御前に打ち伏し 我が悔ゆる 心の嘆きに こたえませ ※
- 3 きみのいさおにぞ ただ頼らん、か弱き この身を 助けませ ※
- 4 望みのもとなる 主のほかにも、天(あめ)にも土(つち)にも 救いなし ※ アーメン

説教：「永遠のいのちに至る水」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

今日はいつもより少し長い聖書の朗読を聞きました。どんなお話だったか、少し振り返ってみましょう。サマリアという地方に住んでいたある女性は、平凡なある日のお昼ごろ、いつものように水がめをもって町はずれの井戸に来ました。町の人々はみな家で食事をする時間です。そこにひとりのユダヤ人男性の旅人から「すみません、お願いがあります、助けてください」と声を掛けられました。かつてユダヤ人は、まことの神様に愛されて、奴隷となっていたエジブ

トの国からモーセに率いられて自由の地へと導かれて、そこで大きな王国を建てました。その後、国は南ユダと北イスラエルのふたつの王国に分裂してしまい、北イスラエルに住むサマリア人はまことの神様をエルサレムとは別の、自分たちで新たに作った場所で礼拝するようになりました。そして南ユダのユダヤ人に引け目を感じ、断絶して、住む場所の違うユダヤ人とは接する機会はありませんでした。イエス様はユダヤ人でした。この女性に会うためにサマリア地方に来る前に、エルサレムの神殿でまごころから神様を礼拝することをしないユダヤ人を戒めました。またユダヤ人の指導者にはご自分が救い主であることを示しました。イエス様は、神殿の生贄ではなく、ご自分の十字架刑という犠牲によって、ユダヤ人だけではなくすべて信じる人の罪を赦すために天から来られた救い主なのです。イエス様はサマリア人の救い主でもあります。そのことをまだ知らないサマリアに旅をしてこられたのでした。そしてへりくだって、もしよかったら水を飲ませてくださいませんか、と井戸で出会ったこの女性にお願いなさいました。イエス様は世界の人々の救い主として、今、日本に住む私たちにも自ら近づいてお声をかけてくださいます。それも「私が救い主であることを認めないのか、なぜわからないのか」と高圧的な態度で来られたのではなく、あなたを尊重し、あなたを信頼して「私は困っています、助けてほしい」とあなたのまごころに向けて膝をかがめておっしゃっています。イエス様は今朝、世界の人に、そしてあなたに「人がつくった区別でまことの神様を限定することなく、わたしが与える、渇くことのない、永遠の命に至る生きた水を、受け取っていただけませんか」とお語りになっています。

さて、イエス様は民族的分断のことだけではなく、このサマリアの女性の人生の飢え渇きも熟知しておられました。彼女は結婚と離婚を五回も繰り返し、今は結婚していない人と連れ添っていました。何度も幸せを求めながら、ことごとく期待を裏切られて、罪深い暮らしをしていました。それで町の人とはぜったいに会わない時間帯を選んで井戸に来て、水がめに水を汲んだのです。

罪深い生活を送っていたため人目を避けて井戸の水を汲みに来たこの女性にイエス様は「あなたの助けが必要です、喉が渇いています、井戸から汲むすべを持っていません、どうか水を飲ませてくださいませんか」とお願いしました。不思議な方だな、と思い、興味を惹かれて対話が続きました。「もしかしたらこの方は、これまでの民族的引け目や、満足できなかった自分の引け目だけの人生を変えてくださる方かもしれない」、また「もしかしたらこの方は、サマリア人の自分たちが昔から、そんな方がおられたらいいのに、と何世代にもわたって待っていた救い主についてご存じではないか」と直感的に感じました。それでイエス様に「わたしはキリストとよばれる救い主が来られることは知っています」と言いました。すると、それまでお話ししてきた旅人が、「それはあなたと話をしているこのわたしです」と言われました。その言葉を聞いて彼女はそう信じました。威厳と優しさに満ちたイエス様の言葉に信頼したのです。この女性は待ち望んでいた救い主のイエス様と出会ったのです。そして人生を変えられました。

これまでこの女性は、後ろめたい気持ちと失敗の連続の満たされない気持ちで、人目を避けて、町はずれの泉に生活に必要な水を汲みに来ていました。イエス様に会いました。彼女は汲みに来た水がめをそこに置いて、急いで町の人に知らせに行きました。変えられました。罪を赦された深い安心と喜びが彼女を町の人々へのいたわりとお誘いに駆り立てました。高圧的な言葉は使っていません。「救い主かもしれない方に出会っただけけれど、皆さんが確認して私に教えてくださいませんか」とお願いしています。「来てこの方に会ってみてください！たいへんです。私の人生をご存じの方で、初対面なのにわたしがしてきたことを言い当てました。教えてください、この方が救い主なのでしょうか。」彼女のことは聞いてイエス様のことを信じた人もいました。イエス様に会ったという罪深いこの女性が、まるで生まれ変わったように命溢れて語っていたので、これは偽りではない、と思ったのでしょう。

まことの神様は独り子であるイエス様を私たちのもとに遣わして、十字架で私たちの代わりに死に渡してくださいました。私たちの罪をご存じの神様が正しくその罪を赦すためです。そして私たちを縛って幸せを奪っている罪の力から私たちを解き放って、神の子として上からのいのち、永遠の命に生きるようにして下さるためです。私たちは自分で心に壁をつくり、いろいろな理由をつけて素直に受け入れません。本当は困っているのに、傷つくことを恐れ、人の声や目から自分を守るために、罪の姿を神様の前でさらされることを避けます。自分で何とかしたいのに、また、誰かに何とかしてほしいのに、ときどき胸を突き上げるような悲しみや疑問に対応しながら、解決はない、とあきらめて閉じこもっています。イエス様は高圧的にではなく、威厳と優しさをもってあなたに語り掛けます。むしろへりくだった姿勢であなたを尊重し、あなたを信頼して、あなた自身の人生と向き合ってください。この女性はこれまでのわからなかったことをなんでもイエス様に尋ねています。イエス様はあなたの大切に思ってきたことにこたえてくださいます。彼女が人々の前では隠してきた悩みや疑問に、イエス様は丁寧に耳を傾けて、心細かった彼女を支えながら「あなたが探していた救い主はこのわたしです」と威厳と優しさをもって宣言してくださいました。サマリアの女性は恐れや不安や疑念や絶望から解放されて、気が付いたら人々の幸せを願って町に行ってイエス様が来られていることを知らせていました。この一大事は何としても町の人にも知らせたい、と正確にニュースを伝えました。

イエス様を井戸に残してお昼ご飯の食べ物を探しにいていた弟子たちは帰ってきてイエス様がこの女性とお話になっていることに驚きました。女性の言葉に興味をもった町の人々はイエス様にとどまるようにお願いし、町に迎えてお話を聞きました。そしてこの女性に言いました。

「私たちはイエス様から自分で聞いて、本当に世界の救い主でいらっしゃると思いました。あなたが話してくれただけで信じているのではありません。」自分でイエス様に聞かずに、先入観で反対したり心を閉ざしたりしませんでした。イエス様は求められるままとどまって語り合ってください。尊重し信頼して、威厳と優しさをもって私たちを赦し、私たちを新しくしてください。女性はイエス様の赦しを介して、再び町の一員となりました。イエス様にあって

共同体も癒され、ひとりひとりが生き生きと赦された生涯を感謝してともに幸せをつくって歩むのです。私たちもこの一週間、イエス様に信頼し、罪赦された新しい命を燃やしていきましょう。互いにイエス様にあって尊重し、信頼して、ともに幸せをつくっていきましょう。

しかし、わたしが与える水を飲む者は決して渇かない。わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る。」ヨハネによる福音書 4 章 14 節

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン

讃美歌 140 番 献金 献金感謝の祈り

- 1 命の命にましますイエスよ 主イエスは我がため その身を捨てて
滅びの淵より 導きだし 朽ちぬ命を 与えたまえり
- 2 ああ主よ、主イエスは 恥をものし 我がため呪いを 身に負いたまい
悪魔のわなより 救い出して 永遠(とわ)の安きを 授けたまえり
- 3 ああ主は 我がため 十字架をとりて たかぶり傲りを みな 打ち砕き
死ぬべき罪より 贖いだし 天(あま)つ栄えを 得させたまえり
- 4 わが身にかわりて 死にたるイエスよ 十字架をあおげば なくさめつきず
悩みもおそれも すべて消えゆく 主のみめぐみは ありがたきかな アーメン

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たせたまえ。
みこころの天になるとく地にもならせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。
われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

頌栄：讃美歌 543 番

主イエスの恵みよ、父の愛よ、御霊の力よ、ああみ栄えよ **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、
豊かにありますように。 **アーメン**

後奏